

14:15 (そのとき、イエスは弟子たちにいわれた) 「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。

14:16 わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。

14:23 「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。

14:24 わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉はわたしのものではなく、わたしをお遣わしになった父のものである。

14:25 わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。

14:26 しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。

聖霊降臨の主日(2013/5/19 ヨハネ 14 章 15-16,23b-26 節)

<はじめに>

聖霊の役割とはなんでしょうか。

きょうの福音の最後の箇所、25 節にヒントがあります。

「聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」

「イエスの福音」と聖霊はとても深い関係がありそうです。

<福音と律法の関係>

ヨハネ福音 14 章は「掟を守る」15 節「言葉を守る」23 節とことばは変わりますが同じ内容を守るようにっています。

その内容は「互いに愛し合いなさい」13:13 です。

「掟」「守れ」ですので、これをイエスの律法とかりに呼んでおきましょう。

ところで、掟って一つだけでしょうか。十戒もあるから一つ増えて 11 個になったのでしょうか。マタイやマルコの福音では十戒を「神を愛せ」「隣人を自分のように愛せ」とイエスご自身で二つにまとめているから、一個加えて三つでしょうか。

イエスは十戒・律法をバラバラにして、組み立てなおし「福音」に仕立て直しをした、とわたしはイメージしています。イエスは分解した律法を福音として組み立てなおし人びとに伝えた。とくに弟子たちに非常に短い期間ですが、ともに旅をしながら叩き込みました。

「互いに愛し合いなさい」

ヨハネ福音がいうこのイエスの掟は一言でいいきった福音、福音のエッセンスのようなものです。

<掟のゆくえ、聖霊の役割>

掟、つまり律法は人の手にかかるるとだんだんとややこしくなってくる。あるいは逆にこれだけ守れば大丈夫というように人に都合のいいように解釈され改竄される。

聖霊降臨をこのように解釈することもできます。

神はユダヤ人の状況を見て、このままではいかん、と戦術を変えた。その戦術とはみ子イエスを世に送りこみ、テコ入れをおこなった。どのようなテコ入れかというと、それは福音です。十戒という形で掟・律法を人間に与えたが、人はうまくこの掟をつかいていない。それどころか混乱をまねいている。そこで十戒のバージョンアップ、つまり福音を与えた。

また、律法を人の都合で変えたように、福音もまた都合よく捻じ曲げらるだろうから、仕上げとして聖霊を「福音」の守り手として世に送り込んだ。

<聖霊の登場>

五旬祭（ごじゅんさい）はユダヤ教三大祭のひとつです。だからほうぼうに散らされたユダヤ人はみんな旅をして集まってくる。（使徒言行録 2;9 以下、第一朗読解説 9 参照）ペトロたちも同じように祭りに参加しています。イエスの宣教をするには人の集まる五旬祭は絶好の機会です。

その機会をのがさず神は聖霊を華々しく登場させます。

突如、天から大音響と共に炎のような舌が分かれて、ペトロたちイエスグループの上に襲い掛かる。するとみな人が変わったように、異国のことばで語りだす。第一朗読で読んだとおりです。作戦は成功しイエス福音の宣教は世界に広まります。

<もともとは>

聖霊は世界が始まる前から「父」「子（キリスト）」とともに存在した神です。ですから、キリストがイエスとして生れる前

から存在してこの世と関わっていたように、聖霊も聖霊降臨日より昔からこの世と関わっていました。つまり、この日に初めて聖霊が降臨したわけではありません。しかしこの日の聖霊の降臨はとても重要なのです。というのは、旧約聖書全体をとおして「父」が預言していたことの実現として「子」キリストが（以前から存在していたけれどあらためて）クリスマスに世にあらわれたように、ヨハネ福音書 14 章 16-17 でキリストが予告していたことの実現として「聖霊」が（以前から存在していたけれどあらためて）聖霊降臨日に世にあらわれたからです。だから聖霊降臨日はクリスマスと並んで、復活祭とともにキリスト教 3 大祭なのです。

<さいごに>

〈聖霊の続唱〉の祈りできょうの説教を閉じます。

聖霊来てください。

あなたの光の輝きで、わたしたちを照らしてください。

貧しい人の父、心の光、証しの力をぐ方。

やさしい心の友、さわやかな憩い、

ゆるぐことのないよりどころ。

苦しむ時の励まし、暑さの安らい、憂いの時の慰め。

恵み溢れる光、信じる者の心を満たす光よ。

あなたの助けがなければ、すべてははかなく消えてゆき、

だれも清く生きてはいけない。

汚れたものを清め、すさみをうるおし、

受けた痛手をいやす方。

固い心を和らげ、冷たさを温め、乱れた心を正す方。

あなたの言葉を信じて依り頼む者に、尊い力を授ける方。

あなたはわたしの支え、恵みの力で、救いの道を歩み続け、

終わりなく喜ぶことができますように。アーメン